

OSS Token Platform

Web3×OSS

支援トークンで構築する持続可能なOSS経済圏

投資ではなく、支援の証明

問題：OSSの資金不足

現状の課題

- 開発者の燃え尽き: 無償労働による持続性の限界
- 資金調達の困難: 寄付やスポンサーシップの不安定性
- 支援の不可視化: 支援が適切に評価されない

結果

→ 優秀なOSSプロジェクトが継続困難に

解決策：支援証明トークンとは？

従来トークンの考え方

- ✗ 消費型トークン: 使い切って終わり
- ✗ 投機的価値: 短期的な利益追求

本プロダクトでは

- ✓ 保有型トークン: 持ち続けることに価値
- ✓ 支援証明: 「どれだけ支援したか」が一目で分かる
- ✓ 長期関係: 持続的なコミュニティ形成





「投資ではなく、支援の証明」

技術革新①：プレマナー評価システム

動的価格算出の仕組み

トークン価格 = 基準価格 + GitHub品質スコア + 寄付累積効果

GitHub品質スコア(現状)

-  コミット鮮度
-  ダウンロード数
-  Issue数
-  スター数

技術革新②：RLUSD換算による価格安定化

XRPボラティリティ問題の解決

いまだにXRPのボラティリティは大きく、寄付時に価格変動が発生したり
寄付後にトークン価格が大きく変動することがあります

これを防ぎ寄付時の価格を安定化させるために**RLUSDのオーダーブック**を利用します

技術革新③：Check系トランザクション

CreateCheck・CheckCashを利用したトークン配布システム

従来の問題

- 事前にトラストラインの設定が必要
- 複雑な手順でユーザー離脱リスクあり

Check系TXの利点

1. CreateCheck: トークン小切手を自動発行送付
2. CheckCash: Xamanアプリで簡単受け取り

寄付を含めて2ステップでトークン受け取り完了！

将来展望(一部): ライセンスキー自動発行

商用利用の新しい形

仕組み

1. 寄付と似たフローでライセンス発行申請
2. 寄付額とトークン保有量に応じて自動で期間を設定したライセンスキーを発行
3. ライセンスキーはプラットフォーム上で閲覧可能
4. OSS内でアドレスを利用したオフラインでのライセンスキーの検証

トークンの保有量が割引やライセンス期間延長に反映される

→長期支援者や早期支援者ほど保有量が多くなり優遇される仕組み

MVP達成度: 95%完了

✓ 実装完了

- GitHub OAuth, GitHub App
- プロジェクト登録・管理
- XRPL統合 (CreateCheck/CheckCash)
- 寄付フロー・トークン発行
- RLUSD換算機能付きプレマネー評価システム

🚧 短期的な実装予定

- ライセンスキー発行システム
- プライベートリポジトリ対応

デモ紹介

実際の動作をご覧ください

デモ内容

1. ~~メンテナー登録フロー~~: GitHub連携からプロジェクト登録(割愛)
2. 寄付フロー: QRコードスキャンから寄付完了
3. トークン受け取り: Xamanでの小切手現金化

寄付及びトークン受け取りまで2ステップで完了するシームレスな体験

まとめ

ビジョン

「支援証明トークン」による持続可能なOSS経済圏

革新的機能

プレマネー評価 × RLUSD安定化 × Check系トランザクション

実用性

将来のライセンスキー自動発行やトークン保有によるOSS優先サポート